

加古川平成ロータリークラブ  
会長 原田 悟  
幹事 高田 裕美  
公共イメージ委員長 網本 徹  
2680 地区ガバナー 城 守

**UNITE  
FOR  
GOOD**

例会日/毎金曜日 18:00~19:00・例会場/加古川プラザホテル  
事務局/加古川市加古川町溝之口 800 加古川商工会議所会館  
Tel. 079-422-8000 FAX. 079-422-8100  
ホームページ <http://www.k-heisei-rc.com/> Eメール [heiseirc@basil.ocn.ne.jp](mailto:heiseirc@basil.ocn.ne.jp)

2025~2026 年度 RI 会長 フランチェスコ・アレッツォ

No. 1606 September 19、2025

**例会プログラム**

第9回(9月 19日)

平成フリートーク  
「3クラブ合同例会の最終打ち合わせ」

例会当番 井上

**次週例会プログラム**

(10月 3日)

2日(木)に変更

「3クラブ合同例会」

ホスト;加古川平成RC

次週例会当番 岡田

**前週例会報告**

◇ ゲスト

◇ ビジター

◇ 出席率 先週 会員数 16名 出席数 8名 出席免除 2名 欠席数 6名  
先々週 会員数 16名 出席数 8名 出席免除 2名 欠席数 6名

◇ 欠席者 6名 井上 岡田 高田 鳥井 松野 山本

◇ メークアップ 2025年9月3日 第1回ロータリー財団・国際奉仕合同委員長会議 榊  
2025年9月6、7日 加古川楽市 原田 高田 宮宅 林 榊 網本 山本 岡田 藤井



★ 会長の時間

★ 榊SAA

★ 林会員に在籍祝

**RIテーマ よいことのために手を取りあおう**

## 本日の幹事報告

※ 例会欠席の時は必ず事前に事務局へ連絡！

※ 本日の食事；100万ドル

### ① 各RC例会変更のお知らせ

- 高砂RC 9月19日(金)→高砂青松RCとの合同例会 於；高砂市生石研修センター  
10月3日(金)→休会【定款第7条第1節(d)による】  
10月10日(金)→休会【定款第7条第1節(d)による】  
10月24日(金)→10月26日(日)8:00～ 家族移動例会 於；サトリ山崎蒸留所見学他
- 高砂青松RC 9月17日(水)→19日(金)高砂RCとの合同例会 於；高砂市生石研修センター  
10月15日(水)→休会【定款第7条第1節(d)による】  
10月29日(水)→11月9日(日) ラトローブ・ディ～国際交流BBQ 於；一の池公園
- 加古川中央RC 10月2日(木)→3クラブ合同例会 午後6時～ 於；加古川プラザホテル  
10月23日(木)→10月25-26日(土・日)親睦旅行  
10月30日(木)→休会【定款第7条第1節(d)】  
11月27日(木)→休会【定款第7条第1節(d)】

### ② 回覧します

- ・(公財)加古川国際交流協会よりかこがわ国際交流 Vol.47
- ・2025-26年度ポリオ根絶チャリティーゴルフコンペガバナ一杯のご案内
- ・地区補助金プロジェクト見学訪問のご案内(姫路東RC・尼崎南RC)参加ご希望の方は事務局までお知らせください

③ Boxに2024-25加古川RC・加古川中央RC会報誌、ハイライトよねやま vol.306を入れております。

## 9月度理事・役員会報告

### I 協議事項

- 1) 10月プログラムの件 山本 裕一例会担当小委員長  
10月3日(金)： 10月2日(木)に変更「3クラブ合同例会」ホスト；加古川平成RC  
10月10日(金)： 公式訪問前のクラブ協議会(オーバルルーム) 藤本光一ガバナ補佐  
10月17日(金)： 例会取消【定款第7条第1節(d)】  
10月24日(金)： 「ガバナ公式訪問」(大会議室) 城 守ガバナ  
10月31日(金)： 例会取消【定款第7条第1節(d)】
- 2) 楽市の件  
集合1日目：7:30ー 2日目：9:00  
写真撮影時は、一般の方には掲載許可をとること(フォトコンテストに出展するため)
- 3) 3クラブ合同例会会費の件  
会費10,000円→11,000円に変更。1万円は前期会費で徴収済、1千円は後期会費で徴収する承認
- 4) その他  
・夜会を開催する

### II 報告事項

- 9月度ロータリーレート 1\$ = 147円(現行149円)  
8月度累計欠席連絡状況 電話：0 メール：11 fax：0 出欠表：2 なし：1

# SONG TODAY

## 加古川平成ロータリークラブ歌

作詞；平松弘光

作曲；平松愛理

大空を心に描き

昇る日は世界を結ぶ

人と人共に歌おう

とこしえ  
永久の友情誓い

瀬戸内の加古の里から

呼びかける平成ロータリー

平成ロータリー

## 加古川楽市【END POLIO NOW】募金キャンペーン



皆様ご協力ありがとうございました



## ユン・サング元 RI 会長エレクトが 75 歳で逝去

2026-27 年度国際ロータリー会長として選出された有能なリーダーで実業家であるユン・サング氏が、膵臓がんとの闘病の末、9月5日に逝去されました。新漢陽ロータリークラブ（韓国）会員だったユン氏は、治療を理由に8月に会長エレクトの職を辞任していました。

「ユン氏の死は、世界のロータリーファミリーにとって大きな喪失です」とフランチェスコ・アレツォ RI 会長は述べ

ます。「ユン氏の多大な奉仕、ビジョン、ロータリーへの貢献は、これからも私や人びとに勇気と意欲を与え続けるでしょう。その遺志は、ロータリーの友人たちや、彼の献身的な奉仕によって支えられた人びとの心の中に生き続けます」

ロータリーのジョン・ヒューコ事務総長は、「がん治療中も、労をいとわずロータリーに関わり続けたリーダー」とユン氏を偲びます。「ユン氏の献身と思いやりは、彼のやり残した仕事を私たちが引き継ぎ、ロータリーの成長と強化に取り組み続ける上で、インスピレーションとなるでしょう。ウンソン夫人とご家族に、深い哀悼の意を表します」

ユン氏は、韓国ソウル育ち。父親は著名な政治活動家で、1960年代初めに韓国大統領を務めました。父親のように政界に入る代わりに、建築への関心を追い求めて高校卒業後に米国に渡航し、シラキュース大学で建築学の学士号と修士号を取得。1980年代後半に帰国して建築材料の設計・販売を手がける Dongsuh 社を創業し、これが 1988 年ソウルオリンピックのための建設ブームと重なり、大きな成功を収めました。その後、不動産と投資を扱うベンチャー企業である Youngan 社を創業しました。

1987 年、新漢陽ロータリークラブの創立会員としてロータリーに入会。ユン氏はロータリーを、職業人のネットワークづくりの拠点、また地域社会へのより深い参画の機会であると考えました。入会した当初からロータリー青少年交換プログラムの推進に尽力し、奨学金委員会で活動。これらの関心は、特に国際奉仕に焦点を当てた、生涯にわたる奉仕への熱意へと膨らみました。

「Keep Mongolia Green」（モンゴルを緑に）プロジェクトでは、共同委員長を 8 年間務め、モンゴル、中国、韓国の周辺地域で頻繁に発生していた砂嵐の緩和のためにゴビ砂漠に防風林を植えました。このプロジェクトはやがて、砂漠化緩和を目的とするカラコルムでの果樹園へと拡大し、現在カラコルムはモンゴル最大の緑地帯となっています。この成功は、モンゴル政府が砂漠化対策のためにさらなる行動を起こすきっかけとなりました。この画期的なプロジェクトを指揮した功績が認められ、モンゴル大統領から友好勲章を受けました。

「砂漠で木が育つとは誰も思っていませんでしたが、私たちはプロジェクトを成功させました」。こう話すユン氏は、モンゴルに 33 回、足を運びました。ユン氏は数十年にわたって世界各地を訪れ、自らがリーダーを務めたり、計画に携わったりした 30 以上のロータリー財団補助金プロジェクトを視察しました。これらは、アフリカやアジア、オーストラリア、ヨーロッパ、北米、南米で実施されたものでした。

エリザベス女王から大英帝国勲章を、大韓民国の大統領と首相から功労賞を授与されました。また、ユン・ボソン記念財団の管理委員、ソウル春の室内楽フェスティバル委員長、韓国国連協会理事を務めました。

ロータリーの理事と管理委員のほか、数々の委員会の委員長を歴任。妻ウンソンさんと共に、ロータリー財団ベネファクター、メジャードナー、アーチ・クラフ・ソサエティ会員、ポール・ハリス・ソサエティ会員、遺贈友の会会員となり、ロータリー財団特別功労賞の受賞者でもありました。

「とてつもなく純粋で寛大な方でした」とステファニー・アーチック元国際ロータリー会長は話します。数年前、アーチック氏の姪が英語教師として働くために米国から韓国に渡った際、ユン氏が自宅に招き、現地の文化に馴染めるよう世話をしてくれたと言います。韓国を訪れた多くのロータリー会員が、ユン氏の手厚いもてなしと思いやりに触れました。ユン氏は、RI 会長としての 1 年を通じて、ロータリーの長年の伝統を守り、さらに発展させることを待ち望んでいました。

カルガリー（カナダ）で 6 月に開かれた 2025 年ロータリー国際大会の出席者への動画メッセージの中で、ユン氏はこう語りました。「自分は単独のリーダーではなく、むしろ強くて切れることのない鎖の輪の一つであると考えています。この鎖は、歴代会長たちの知恵と献身によって形づくられたものであり、今日、私を支えてくれている多くの方々によって力強く握られています」

韓国陸軍の退役軍人であり、Andong Presbyterian Church の名誉長老でもあるユン氏は、歴史的建築物に造詣が深く、韓国の文化遺産の保存を提唱しました。自身も、19 世紀に建てられた韓屋（韓国の伝統的な家屋）に住んでいました。ユン氏の父親はこの家で国政をとり、韓国の民主化運動の本部として、また政治活動家の避難所としてもこの家が使われました。

ご遺族には、妻ウンソンさんと成人した二人のお子さん、数人のお孫さんがおられます。

文：Wen Huang 5-Sep-2025

